

台風18号

FEATURE DISASTER



広報

わかさ

2013.11 No.103





遊子～小川



遊子



小川



海士坂の山間部



気山



杉山



海士坂



別庄

台風 18

若祭が行われていた9月15日。台風18号が近づくにつれ、午後には止み間なく雨が降り、夕方には大雨警報・洪水警報が相次いで発令されました。

夜半、屋根を打つ雨の音は絶え間なく響き、市場で午前2時の時間雨量は41mm。岩屋で午前6時には49mm。16日の正午過ぎには、町内各地で24時間雨量が400mm前後に達する激しい雨が降りました。

数十年に一度とも言われた雨は風景を茶色く変え、水が引いた後はたくさんの土砂を残して行きました。元の姿に戻るにはまだ時間がかかりそうです。



野木川の下野木付近



はず川の河口付近

上野木



三方



北川の本徳寺橋付近



有田



日笠



海山



世久見



海山

号 被 害



下野木



成出



成出



南前川

《 台 風 の 記 録 》

日付	時刻	警報・通行止め・指示等
H25		
9/15	17:50	大雨警報発令
	20:28	洪水警報発令
9/16	1:00	土砂災害警戒情報発令
	2:00	県道上中・田烏線 山内付近冠水 通行止
	3:00	県道小浜・上中線 遠敷～上野木 通行止
		国道 27号 倉見～下々中 通行止
		県道上中・田烏線 脇袋～無悪 通行止
	4:00	熊川・三宅・野木地区 避難勧告
		国道 162号 別庄～田井 通行止
	5:00	災害警戒本部設置
	5:00	鳥羽・瓜生地区 避難勧告 (上中地域全 2419 世帯、7783 人)
	5:05	特別警報発令 ※ 携帯エリアメール
	6:00	三方地域全域 避難勧告 (三方地域全世帯 2615 世帯、8336 人)
	7:00	災害対策本部設置
		国道 27号 三方石観音前 通行止
	8:15	国道 303号 市場～県境 通行止
	8:30	梅街道 串子川以南 通行止
	13:50	上中地域 避難勧告解除
	17:00	三方地域 避難勧告解除
		JR 小浜線 17 日終日運転見合わせ
	20:25	すべての気象警報解除
	22:00	県道常神・三方線 土砂崩れのため 遊子～小川通行不能
9/18		ガラスボート3 往復運航開始・臨時バス運行
9/20		半島周辺集落 現地対策説明会 (小川・神子・常神・遊子・塩坂越・海山)
9/23		遊子・小川仮設歩道供用開始 (6:00～18:00)
9/24		県所有船運航開始
9/30		国所有船運航開始
10/12		県道常神・三方線 通行止解除

※特別警報

警報の発表基準をはるかに超える現象に対して発表し、その発表基準は、地域の災害対策を担う都道府県知事及び市町村長の意見を聴いて決められています。

経験したことのないような異常な現象が起きそうな状況で発令され、ただちに命を守る行動をとる必要があります。この数十年間災害の経験が無い地域でも、災害の可能性が高まっています。



10月12日、待ちに待った常神の仮設道路が開通しました。

1 2 2 2 人 の 手

多くの被害が発生した台風 18 号。今回は若狭町で初めて災害ボランティアセンターが開設されました。延べ 1222 名もの町内外、遠くは関東からも来てくださった方々にボランティアをしていただき、通常の生活に戻るお手伝いをさせていただきました。その一日を追いかけてみました。

Start



◆若狭町災害ボランティアセンターは、社会福祉協議会を中心に運営され、「地域福祉センター泉」を拠点として活動しました。ボランティアの受付や作業終了報告など、総合的な窓口です。



◆受付では若狭町女性の会が活躍。受付で、保険加入（保険料は県負担）をし、名札を付けます。



◆ボランティアの行き先が決まります。行き先によって、自家用車、バスのどちらかで、作業先の近くのサテライトと呼ばれる拠点まで移動します。



◆サテライトでは、センタースタッフや地元の方から 1 日の作業の段取りや休憩場所などの指示を受け、作業に入ります。



◆約 1 時間おきに休憩を取ります。お昼やお茶などはボランティアの持参。センターからは寄付された梅干しや水などが配布されることもありました。



◆詰まった水路の土砂上げをしています。



◆水に浸かってしまった収穫後の米を、天日に当てて乾かします。



◆農機具についた泥をひとつひとつ洗っています。



◆集落の1か所に集められたゴミも分別。



◆湖岸に漂着したヒシや流木を、重機を持ち込んで引き上げる作業。



◆床下に入った泥を、根太の脇からすくいあげます。



◆根太もふき、消毒薬を散布します。



◆作業した家の人と記念撮影。笑顔でお別れ。



◆作業終了後は、ボランティアセンターに戻ってきます。

Continue…

9月18日から24日まで、22日を除く毎日、100人前後のボランティアが活動した海士坂集落で話を聞きました。

「初めてボランティアという言葉を見たときは、何のことやろと思ってました。まあ、まさかうちがお世話になるとも思わらんもんで、ボランティア入れようか言うていわれても、そんなことがあるんかいなあ〜という具合ですわ」

「もう、あんだけの泥がどうなるかわからんし、私らみたいな年寄りも、どうにもできんなあと眺めとったんですけど、まあ、ボランティアさんは神さんみたいなもんです」

「若い学生さんらが一生懸命床の下に入って来て、泥をかき出してて…神さんよりありがたかった。私らはボランティアというものの認識がなかった。あんだけありがたいもんやとは」

涙を流しながら感謝の言葉を口にするおばあちゃんの姿が、参加いただいたボランティアさんたちに届けばと思います。ありがとうございました。

L e t ' s F e s t i v a l

9月6日、7日は上中中学校で「上中祭」が開催されました。

文化部門の6日は、吹奏楽部などのステージ発表や芸術部作品展示、学年ごとのレポート展示、バザーで盛り上がりました。特に選択集中学習の箏・よさこい・和太鼓・フラダンスのステージ発表では、普段と違ったクラスメートのパフォーマンスにあたたかい声援が送られました。

体育部門の7日は、雨天のため一部競技は体育館で行われました。縄跳びなどの団体競技では、チームでかけ声をそろえ団結して取り組む様子が印象的でした。



箏のステージ発表



体育部門の大縄跳び

また、9月8日に予定されていた三方中学校の体育大会は、雨天のため9日に延期して開催されました。

観覧席には応援に駆け付けた大勢の保護者の姿がみえました。

色別パフォーマンスでは、チームごとの個性豊かなテーマと趣向を凝らしたダンスが観覧席の目を引きました。女子生徒全員が紅色の衣装をまとって舞うYosakoiソーランも華やか。

気持ちの良い秋晴れの下、のびのびと競技をする生徒たちの笑顔が弾けた一日でした。



色別パフォーマンス



Yosakoiソーラン

手をつなごう

9月7日、パレア若狭に歌手の辛島美登里さんを迎え、歴史環境講座が開かれました。

第一部では、鹿児島出身で、去年は縄文シティサミットの会場となった霧島市の観光大使でもある辛島さんと、福井新聞社の伊与登志雄さん、若狭三方縄文博物館の小島学芸員のトークコーナーがありました。若狭町と霧島市の共通点を語り合い、300人の来場者が、二つの町について理解を深めました。

第二部では、辛島さんがヒット曲「サイレントイブ」など5曲を披露し、アンコールでは震災復興のチャリティーソングでもある「手をつなごう」を歌いました。来場者は歌に合わせて手をつなぎ、同じ時間を共有しました。



みんなでかっご

9月11日、12日は鳥浜地区で加茂神社例大祭が行われました。

11日は加茂神社から御旅所となる愛宕神社まで神輿が渡御。12日には笛や太鼓の音と共に、大人神輿と子ども神輿が区内を練り歩きました。

残暑が厳しい中、大人も子どもも汗びっしょりになって神輿をかついでいました。地区の人々は道沿いで行列を見守り、写真撮影をしたり声援を送ったりしていました。

加茂神社に神輿が還御した後は、本殿にて式典と子ども囃子、浦安の舞が奉納されました。



神輿還御



「浦安の舞」の奉納

S A T O Y A M A

農林水産業などによって作り上げられた日本の里地里山文化に加え、世界各地の持続可能な自然資源の利用を促進するために発足した「SATOYAMAイニシアチブ国際パートナーシップ」の第4回定例会合が、9月13日に福井県で開催されました。これに合わせ、若狭町にも30か国以上の政府・自治体関係者や研究者が訪れました。

9月9日、10日は、東ティモールの国家環境事務局のクリストバ・ペレイラ・マルチネスさんと、インドの研究財団のアネール博士の二人が訪れ、三方五湖周辺の環境や山の保全などの取り組みを視察しました。

夜は大下恭弘さん（田井野）の農家民宿でシバエビやうなぎ、栗ごはん、ぜんまいなど、里地里山が生み出す昔ながらの食事を取り、里の食文化に触れました。また14日の最終日に国際

交流会館（福井市）で行われる最終プログラムで、米作りを通じて地域の人たちとの交流を図っている活動発表をする高校生二人と、指導した先生も宿泊先に訪れ、情報交換を行いました。

12日には、参加者約60人が視察に訪れました。参加者は、若狭三方縄文博物館でハスプロジェクトの活動や三方五湖の年縞などについて説明を受け、鳥浜の水田魚道を視察し、その後レインボーラインから三方五湖を眺望しました。

最終日は、発表を終えた高校生二人を囲んで、若狭町を訪問した2人の参加者と、ハスプロジェクトの会員らが集まり記念撮影をするなど、別れを惜しむ姿が見られました。

きっと思い出深い1週間になったことと思います。

（市野厚子・小西榮）



竣 工 式 と ジ ビ 工 料 理

9月14日、海士坂にある嶺南地域有害鳥獣処理施設で安全祈願祭と鳥獣慰霊祭が行われ、その後、食肉加工施設の竣工式典が行われました。

式典では嶺南広域行政組合の管理者である河瀬敦賀市長の挨拶と、事業主体である森下若狭町長の工事経過報告などの後、関係者によるテープカットが行われました。

列席者は施設を見学した後、会場を鳥羽小学校に移してジビエ料理（野生動物の料理）を試食しました。



食肉加工施設は実際に解体加工が始まると、ほとんど立ち入り出来ないとのこと。今回は貴重な見学となりました。

試食会ではシカ料理を頂きました。シカ肉そのものに味はほとんどないので、ローストは無花果や梨のソースが工夫されており、美味しさを引き立たせていました。

シカは夏が旬らしく、さっぱりとしたそばろ寿司や、モモ肉の梅シソカツは柔らかくて美味しいと出席者に好評でした。（田邊真紀）



町の特産品を知ろう!!

子どもたちが、自分の生まれ育った町の自然にふれながら地域の産業についてもっと学べるように、町と小学校、そして地域の方々が連携して授業を行っています。

◇かぶらちゃんの会ジュニア!

9月10日、鳥羽小学校3年生14名が、山内の畑で伝統野菜「山内かぶら」の種まきを行いました。これは平成23年に発足した「山内かぶらちゃんの会」との連携授業です。

畑では、同会の飛永悦子さんが種まきの方法を説明しました。児童たちは小さな種を3粒つかんで土の上にまき、土と、もみ殻をかぶせました。

秋月惺奈さんは、「初めて種まきをしてみて楽しかった。かぶらの種が細かくて、3粒を手取るのが難しかった。かぶらは、おみそ汁に入れて食べたい」と話してくれました。

最後、子どもたちが手作りした「とぼっ子かぶらちゃんの会ジュニア」と書かれた看板をみんなで囲み、記念撮影をしました。



◇袋がけからジャムづくりまで…

みそみ小学校3年生の子どもたちが、梨の袋がけからジャムづくりまでを学びました。

9月17日は、高橋善正さんの梨園で、二十世紀梨の収穫体験が行われました。

自分たちで袋がけをした梨をいよいよ収穫します。子どもたちは、「パキン」といい音を立てて枝から離れる感覚が楽しい様子。「もっと取りたい!」と、笑顔で収穫していました。



9月24日は、小学校で梨の皮むきの授業です。この日は生産者の高橋善正さんと瀬尾澄子さんが指導に訪れました。生産者の二人は子どもたちの包丁に手を添えて、優しくアドバイスされていました。

皮をむいた梨をみんなで試食した後、高橋さんから梨栽培の流れや苦労することなどについて話を聞きました。「梨をつくっていて楽しいことは何ですか?」という子どもたちの質問には、「みんなが梨園に来てくれるのが楽しい。おいしかったとお礼を言ってくれるのが嬉しいです」と答えました。最後には、「生産者の高齢化で後継者不足なのが心配です。梨園をしたい人がここから一人でも出てきてくれると嬉しいです」と話されました。

江戸愛華さんは、「おうちでよくむいてるから綺麗にむけた。梨はとても甘かった!」と嬉しそうでした。



10月1日は、岩屋の加工場で瀬尾澄子さんから梨のジャムづくりを教わりました。

レシピの説明を受け、ジャムを一人ずつビンに詰めた後、ジャムをクラッカーに乗せて試食しました。子どもたちは、お家でもパンなどに乗せて食べるのが楽しみな様子。

最後、「若狭町の特産品は?」という質問に「梨!」と声を揃える子どもたち。しっかりと覚えられたようです。



◇ しあわせのコウノトリ米

9月18日、鳥羽小学校の5年生28名が「コウノトリ米」というもち米の稲刈りをしました。この日は、老人クラブのみなさんも指導に訪れました。

まず稲の刈り取りでは、子どもたちも初めて体験する作業も多く、稲の根まで一緒に取れてしまったり、稲を置く向きが逆さまになったり、ひとつにまとめる株が多すぎたり…。クラブの方たちはそんな様子も微笑ましく見守り、楽しんでいました。



次に、まとめた稲をワラで縛る作業です。刈った稲ひとつかみ4回分をまとめるのですが、「ワラをきつく結ぶのが難しい！」と、子どもたちはこの作業が一番苦戦している様子でした。稲を束ねて一回転する際にワラをつかんだまま…というのが難しい様子。手の向きが合わず、悪戦苦闘。何回やってもクラブの方のお手本どおりにならない…と、汗をにじませながら何度もチャレンジしていました。

最後は、ワラで縛った稲を小学校のプールまで一輪車で運び、フェンスに干していく作業です。運んできた子がプールサイドで待機している子を目掛けて稲の束を投げます。見事な連携プレーであつという間にフェンスが稲のカーテンで埋め尽くされました。

宇野祥大くんは、「稲刈りは、鎌を使うのに思ったより力がいった。でもとても楽しかった。大人になったら、もしかしたら田んぼをやってみるかも…？」と、笑っていました。



◇ おいしい有機米♪

9月19日、ゆりかご田で三方小学校の全校児童が、5月に自分たちで田植えをしたゆりかご米の稲刈りをしました。

この日は、3年前から自分の田んぼを小学校に提供し、管理もしている松村光洋さんをはじめ、地域の方々が指導に訪れました。

作業中は、上級生が下級生に鎌の使い方などを優しく教えてあげる様子が田んぼのあちこちで見られました。

笑顔でどんどん稲を狩り進めていた2年生の橋詰みゆさんは、「家の田んぼでも稲刈りをお手伝いした。その時は機械を使ったから、鎌を使うのが初めてで、楽しい」と、話していました。

この日に収穫したお米は、「感謝の集い」でおにぎりを作り地域の方や保護者の方へ振る舞ったり、地域のひとり暮らしのお年寄りの方におすそ分けをします。また、5年生は「熊川いっぷく時代村」（10月6日開催）でお米の販売を行いました。児童たちは着物姿で元気な呼び声を上げながら、お米を積んだ一輪車を引きました。ゆりかご米は大人気で、午前中のうちに完売しました。

